

課題解決型高度医療人材養成プログラム

5大学連携（東北大学, 新潟大学, 東京医科歯科大学, 東京歯科大学, 日本歯科大学）

事業責任者メッセージ



生命歯学部長
羽村 章

在宅療養での他職種連携（チーム医療）において求められる歯科医師の役割は、「食べる口」を再建するスペシャリストとして、口腔診断、口腔機能評価に基づいた治療計画を立案し、歯科治療や口腔リハビリテーション、口腔を起因とした疾患の予防も手段として口腔ケアを導入させ、継続した口腔管理を担うことにある。様々なライフステージと患者それぞれの環境下に合わせた歯科医療の在り方が必要となり、歯科ニーズや社会課題に対応できる歯科医療を提供することが求められる。全人的医療を担うチームの一員となり、包括的な視点を養うことと臨床実習を通じて現場力を養うことが必要と考える。そのために、本コースを活用してほしい。

コンソーシアムの概要

本プログラムは、歯学教育分野で先導的な役割を果たしてきた5大学（日本歯科大学、東北大学、新潟大学、東京医科歯科大学、東京歯科大学）が国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、各大学の強みである教育資源を共有・補完することで、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成の実現を目指します。

具体的には、各大学が個性を生かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、e-learningや教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボーダレスな共同利用を行います。

また、シンポジウム、FD（Faculty Development）等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒業教育への波及効果も期待、さらに得られたプロダクト、教育成果HP、学会等を通じて全国発信・共有化を図り、歯学教育の高度化、標準化を目標としています。

また、本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、現行歯学教育の課題を解決する人材養成を促進します。



東京大学 高齢社会総合研究機構
在宅医療学拠点

新潟市社会福祉施設
口腔リハビリテーション
多摩クリニック

日本歯科大学：地域連携ケアコース

概 要

医療・介護・福祉の有機的な連携に基づく地域包括ケアシステムを構築できる人材、リハビリテーション医学に関する知識や口腔機能に影響を及ぼす様々な疾患に関する知識のある人材、要介護者への食生活への支援を通じ、人間としての尊厳を保つための援助である生活支援や人生支援ができる人材養成を目標としており、当大学の基本理念である「高等教育機関として、広く知識を授けると共に、深く歯・顎・口腔の医学を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、もって人類の文化の発展と福祉に寄与し、国民の健康な生活に貢献することを使命とする。」に合致している。

5 大学の教育内容

コア科目

大 学 名	コース名
日本歯科大学	地域連携ケアコース
東北歯科大学	異分野連携イノベティブ歯学展開コース
新潟大学	口腔機能管理学コース
東京医科歯科大学	長寿口腔健康科学コース
東京歯科大学	地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェッショナルコース

本プログラムにおける平成28年度日本歯科大学の講義内容

	講 義 名
第2学年	地域連携・在宅医療概論
第3学年	高齢者歯科学・障害者歯科学
第5学年	健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム

地域連携・在宅医療概論

火曜日 14:35~15:55

本学期的学習目標 (GIO)

患者が居住する地域の中で自分らしい生活を送るために必要な支援体制と、在宅における歯科医療を理解するために、地域における医療・福祉・保健などの実際を学習し、将来の臨床で必要な知識を身につける。

教科書・参考書

著者・編集	書名	版	出版社
森戸光彦 編	老年歯科医学	第一版	医歯薬出版
向井美恵, 山田好秋 編	歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学	第一版	医歯薬出版
日本障害者歯科学会 編	スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科	第一版	医歯薬出版

担当者一覧

羽村 章, 菊谷 武, 田村文誉, 町田麗子, 有友たかね, 福井智子, 久野彰子, 石井良昌, 平沼直子, 五島朋幸, 黒川裕巨, 緒方清和

成績評価

出席状況, 受講態度, 学期末試験, レポート等

オフィスアワー

日時: 毎週火曜日授業終了後
場所: 教室

授業日	担当者	ユニット番号: 名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
9月20日	有友たかね	ユニット1: 地域連携の概要 GIO: 良質な歯科医療を提供するために必要な, 地域における福祉や保健等との連携を理解する。	1) 地域包括ケアを説明する。 2) 地域における各種連携を説明する。 3) 多職種連携について説明する。
9月27日	有友たかね	ユニット2: 在宅医療の概要 GIO: 在宅療養患者に対する良質な歯科医療を提供するために, 必要な知識を身につける。	1) 在宅療養の原因について説明する。 2) 在宅患者の特徴を述べる。 3) 在宅歯科診療の特徴について説明する。
10月4日	町田 麗子	ユニット3: 附属病院における在宅歯科医療活動 GIO: 地域歯科医療と連携するための在宅歯科診療を提供するための, 附属病院における在宅歯科医療活動を理解する。	1) 歯科教育機関における歯科訪問診療について説明する。 2) 附属病院の機能を説明する。 3) 附属病院における在宅歯科医療活動を説明する。
10月11日	菊谷 武	ユニット4: 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動 (1) GIO: 地域医療と連携するための拠点である, 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動を理解する。	1) 地域医療連携の留意点を説明する。 2) 多職種連携の実際を述べる。 3) 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動を説明する。
10月18日	菊谷 武	ユニット5: 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動 (2) GIO: 要介護高齢者に対する良質な歯科医療を提供するための, 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動を理解する。	1) 要介護高齢者について説明する。 2) 高齢者の摂食嚥下機能障害について述べる。 3) 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動について説明する。

授業日	担当者	ユニット番号：名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
10月25日	田村 文誉	ユニット6：口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動 (3) GIO：在宅療養小児患者に対する良質な歯科医療を提供するための、口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動を理解する。	1) 在宅療養小児患者について説明する。 2) 発達期の摂食嚥下障害について述べる。 3) 口腔リハビリテーション多摩クリニックの活動について説明する。
11月1日	福井 智子	ユニット7：地域口腔保健センターにおける在宅歯科医療 GIO：地域歯科医療と連携するための拠点である、地域口腔保健センターにおける在宅歯科医療活動を理解する。	1) 口腔保健センターと歯科医療の関係を述べる。 2) 地域口腔保健センターにおける在宅歯科医療活動について説明する。
11月8日	平沼 直子	ユニット8：在宅療養支援診療所と歯科の連携 GIO：在宅療養支援診療所と連携するための、在宅歯科医療活動を理解する。	1) 在宅療養支援診療所について説明する。 2) 歯科診療室における歯科診療と在宅における歯科診療の違いについて説明する。
11月15日	石井 良昌	ユニット9：地域医療支援病院における歯科の活動 GIO：地域における良質な歯科医療を提供するために、地域医療支援病院における歯科の活動を理解する。	1) 地域医療支援病院について述べる。 2) 地域医療支援病院における歯科の役割を述べる。 3) NSTについて説明する。
11月22日	久野 彰子	ユニット10：医学部付属病院における周術期口腔ケア GIO：地域における良質な歯科医療を提供するために、医学部付属病院における周術期口腔ケアを理解する。	1) 周術期口腔ケアについて説明する。 2) 院内多職種との連携について述べる。
11月29日	五島 朋幸	ユニット11：歯科訪問診療 GIO：地域における良質な歯科医療を提供するために、要介護高齢者に対する歯科訪問診療を行うために必要な知識を習得する。	1) 一次歯科医療者が行う歯科訪問診療を述べる。 2) 一次歯科医療に必要な多職種との連携の必要性を述べる。 3) 都市型歯科訪問診療の留意点を記述する。
12月6日	黒川 裕臣	ユニット12：新潟病院における歯科訪問診療 GIO：在宅要介護高齢者に良質な歯科医療を提供するために必要な、歯科訪問診療の知識を習得する。	1) 歯科教育機関における歯科訪問診療について説明する。 2) 地方型歯科訪問診療の留意点を記述する。 3) 新潟病院の機能について述べる。
12月13日	緒方 清和	ユニット13：小児医療拠点病院における歯科の役割 GIO：地域における良質な歯科医療を提供するために、小児医療拠点病院における歯科の役割を理解する。	1) 小児歯科拠点病院の機能について説明する。 2) 小児医療拠点病院における歯科の役割を述べる。 3) 小児医療との連携について説明する。
12月20日	羽村 章	ユニット14：地域連携・在宅医療に必要な知識 GIO：地域における良質な歯科医療を提供するために必要な、地域連携・在宅医療に必要な知識を理解する。	1) 地域連携について説明する。 2) 在宅医療について説明する。
2月2日	羽村 章	ユニット15：地域連携・在宅医療概論のまとめ GIO：前回までの学習内容を整理・再確認し、問題解決に対応できる知識を習得する。	1) 前回までの学習内容を整理・再確認し、問題解決に対応できる知識を習得する。 2) 患者が居住する地域の中で自分らしい生活を送るために必要な支援体制を述べる。 3) 在宅における歯科医療を列記する。 4) 地域における医療・福祉・保健などの実際を述べる。

高齢者歯科学

月曜日 14:35~15:55

本学期的学習目標 (GIO)

高齢者に対する歯科における対応を理解するために、高齢者を取り巻く環境や身体、心理特性に関する事項を学習しながら、臨床に必要な知識を身につける。

教科書・参考書

著者・編集	書名	版	出版社
森戸光彦・山根源之・櫻井 薫・ 羽村 章・下山和弘・柿木保明 編/日 本老年歯科医学会 編集協力	老年歯科医学		医歯薬出版
向井美恵・山田好秋 編	歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学		医歯薬出版

担当者一覧

須田牧夫, 羽村 章, 菊谷 武, 児玉実穂, 西脇恵子

成績評価

定期・追再試験, 出欠状況と受講態度を評価対象とする。

オフィスアワー

日時: 授業終了後

場所: 第151講堂

授業日	担当者	ユニット番号:名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
9 月 26 日	羽村 章	ユニット1: 高齢者歯科学とは GIO: 世界で最も高齢化が進んだ日本の社会的背景を確認し, 未来に向けた歯科医療の可能性について理解する。	1) 社会的背景について説明する。 2) 現代日本の社会環境を述べる。 3) 超高齢社会の社会保障制度を述べる。
10 月 3 日	須田 牧夫	ユニット2: 加齢に伴う疾患 GIO: 加齢に伴う疾患を知り, これらの患者に対する歯科診療, 口腔機能の管理を行うために必要な知識を習得する。	1) 認知症を有する高齢者の口腔機能の管理方法を述べる。 2) 脳血管障害を有する高齢者に対する口腔機能の管理方法を述べる。 3) その他加齢に伴う疾患をもつ高齢者の口腔機能の管理方法を述べる。
10 月 17 日	児玉 実穂	ユニット3: 形態的・生理的变化 GIO: 加齢による歯, 口腔, 顎顔面の形態的・生理的变化, さらに歯の喪失に伴う顎口腔の変化, 咀嚼機能を理解するために必要な知識を習得する。	1) 加齢による顎顔面・歯と口腔の形態的・生理的变化について述べる。 2) 歯の喪失に伴う顎口腔系の変化を説明する。 3) 高齢者の咀嚼機能について説明する。
10 月 24 日	須田 牧夫	ユニット4: 高齢患者の臨床評価と診療方針 GIO: 高齢患者の臨床評価方法や診療方針の決定方法に必要な知識を修得する。	1) 医療情報の収集方法を説明する。 2) 全身, 口腔の機能評価について述べる。 3) 医療情報の分析と問題点について述べる。 4) 診療計画の立案について説明する。
10 月 31 日	須田 牧夫	ユニット5: 摂食嚥下機能 GIO: 摂食嚥下機能を理解するために必要な知識を習得する。	1) 摂食嚥下機能を説明する。 2) 摂食嚥下障害のメカニズムを述べる。 3) 摂食嚥下機能を低下させる疾患を述べる。

授業日	担当者	ユニット番号：名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
11月7日	須田 牧夫	ユニット6：摂食嚥下機能の評価法 GIO：摂食嚥下機能のリハビリテーションを行うために必要な知識を習得する。	1) 摂食嚥下機能のスクリーニング法を説明する。 2) 摂食嚥下機能の評価法を説明する。 3) 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。
11月14日	菊谷 武	ユニット7：高齢者の栄養管理 GIO：高齢者の栄養状態を知り、その管理方法を理解するために必要な知識を習得する。	1) 高齢者の栄養状態を述べる。 2) 咀嚼機能・嚥下障害・栄養状態の関連を述べる。 3) 高齢者の栄養管理の方法を述べる。
11月21日	須田 牧夫	ユニット8：口腔ケア GIO：要介護高齢者、脳血管障害等のさまざまな疾患をもった患者の口腔ケアを行うために必要な知識を習得する。	1) 要介護高齢者、脳血管障害等のさまざまな疾患をもった患者の口腔内の特徴を述べる。 2) 要介護高齢者、脳血管障害等のさまざまな疾患をもった患者の口腔ケアの重要性を述べる。 3) 要介護高齢者に対する口腔ケアの全身に及ぼす影響を述べる。 4) 要介護高齢者、口腔ケアの実際の方法を述べる。
11月28日	須田 牧夫	ユニット9：歯科訪問診療 GIO：要介護高齢者に対する歯科訪問診療を行うために必要な知識を習得する。	1) 寝たきりの原因疾患を述べる。 2) 在宅における特徴を述べる。 3) 多職種との連携の必要性を述べる。 4) 在宅診療の留意点を記述する。
12月5日	須田 牧夫	ユニット10：摂食嚥下リハビリテーション (1) GIO：摂食嚥下機能のリハビリテーションを行うために必要な知識を習得する。	1) 摂食嚥下障害のリハビリテーションを述べる。 2) 摂食嚥下障害の基礎的機能訓練を述べる。
12月12日	須田 牧夫	ユニット11：摂食嚥下リハビリテーション (2) GIO：摂食嚥下機能のリハビリテーションを行うために必要な知識を習得する。	1) 摂食嚥下障害の代償的訓練を述べる。 2) 摂食嚥下障害の環境の整備を述べる。 3) 摂食嚥下機能を補助する口腔内装置を知る。
12月19日	西脇 恵子	ユニット12：構音機能 GIO：構音機能を知り、そのリハビリテーションを行うために必要な知識を習得する。	1) 構音機能を述べる。 2) 構音機能のリハビリテーションを述べる。 3) 発音補正装置を述べる。
1月30日	須田 牧夫	後学期のフィードバック	前回までの学習内容を整理・再確認し、問題解決に対応できる知識を習得する。

健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム 月曜日 16:30~18:00

本学期的学習目標 (GIO)

超高齢社会のさらなる進展に伴い、大きく変化する医療現場において、全人的医療を担うチームの一員として適切かつ効果的に行動できる歯科医療人となるために、東京医科歯科大学、東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学の5大学が連携して形成した歯学教育コンソーシアムの教育コンテンツを利用し、健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を理解する。

教科書・参考書

著者・編集	書名	版	出版社

担当者一覧

羽村 章, 菊谷 武, 須田牧夫, 高橋賢晃, 町田麗子, 有友たかね, その他コンソーシアム校担当教員

成績評価

出欠状況, 受講態度, 期末試験, レポート等

オフィスアワー

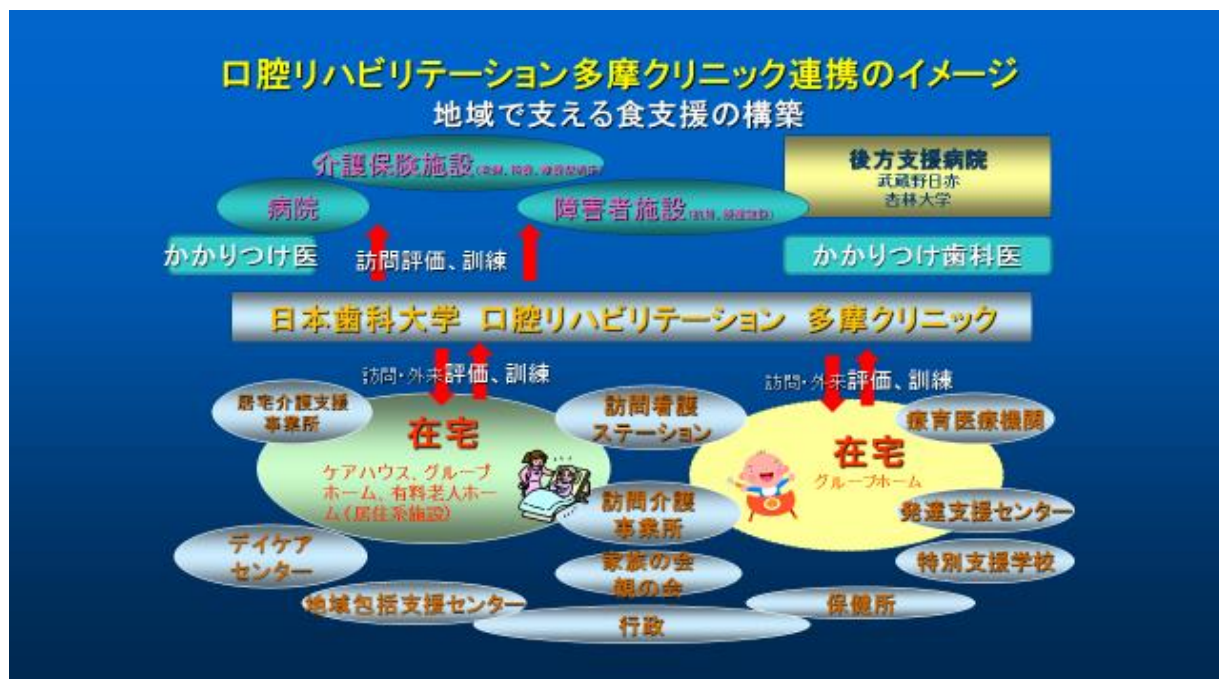
日時: 月曜日
場所: 授業終了後, 講義室にて

授業日	担当者	ユニット番号: 名 学習目標 (GIO)	行動目標 (SBOs)
4月4日	羽村 章 (東北大学)	ユニット1: 異分野融合型先端歯学・歯科医療 (1) 先端的歯科医療とは GIO: 将来の歯学・歯科医療の方向性の一つとして, 異分野融合型の歯学およびそれに基づいた歯科医療のあり方について考察し, 理解を深める。	1) 異分野融合型の歯学について説明できる。 2) 先端歯科医療について説明できる。 3) 将来の歯学・歯科医療のあり方について, 自ら具体的に考察できる。 4) 将来の歯学・歯科医療の変革や改善について, 積極的に取り組む姿勢を持つ。
4月11日	羽村 章 (東北大学)	ユニット2: 異分野融合型先端歯学・歯科医療 (2) 異分野融合型歯学とは GIO: 将来の歯学・歯科医療の方向性の一つとして, 異分野融合型の歯学およびそれに基づいた歯科医療のあり方について考察し, 理解を深める。	1) 異分野融合型の歯学について説明できる。 2) 先端歯科医療について説明できる。 3) 将来の歯学・歯科医療のあり方について, 自ら具体的に考察できる。 4) 将来の歯学・歯科医療の変革や改善について, 積極的に取り組む姿勢を持つ。
4月18日	羽村 章 (東京医科歯科大学)	ユニット3: 長寿を支える硬組織バイオロジー (1) GIO: 硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し, 長寿社会における歯科医療の位置付けを確認する。	1) 骨構成細胞 (破骨細胞, 骨芽細胞, 骨細胞) の役割と機能を説明できる。 2) ロコモティブ症候群と治療法を説明できる。 3) 骨発生と遺伝子疾患の分子メカニズムが説明できる。
4月25日	羽村 章 (東京医科歯科大学)	ユニット4: 長寿を支える硬組織バイオロジー (2) GIO: 硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し, 長寿社会における歯科医療の位置付けを確認する。	1) 骨構成細胞 (破骨細胞, 骨芽細胞, 骨細胞) の役割と機能を説明できる。 2) ロコモティブ症候群と治療法を説明できる。 3) 骨発生と遺伝子疾患の分子メカニズムが説明できる。
5月9日	羽村 章 (新潟大学)	ユニット5: 摂食嚥下のメカニズム (1) GIO: 正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能を知る。	1) 摂食運動に関わる諸器官の構造と機能を説明する。 2) 咀嚼と嚥下運動の機能意義を説明する。
5月16日	羽村 章 (新潟大学)	ユニット6: 摂食嚥下のメカニズム (2) GIO: 種々の疾患が引き金となって生じる摂食嚥下障害に対する臨床への興味につなげる。	1) 摂食運動に関わる末梢器官とその働きを説明する。 2) 摂食運動に関わる中枢神経系の役割を述べる。 3) 摂食運動に対する口腔機能他の周辺機能の重要性を述べる。

授業日	担当者	ユニット番号：名 学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）
5月23日	羽村 章 (東京歯科大学)	ユニット7：テイラード・コミュニケーション概論（1） GIO：診療参加型臨床実習で適切な患者対応を行うために、コミュニケーションに関する知識、技能、態度を修得する。	1) 医療面接を説明する。 2) コミュニケーション技法・カウンセリング技法を説明する。 3) ラポール形成に必要な態度を説明する。
5月30日	羽村 章 (東京歯科大学)	ユニット8：テイラード・コミュニケーション概論（2） GIO：診療参加型臨床実習で適切な患者対応を行うために、コミュニケーションに関する知識、技能、態度を修得する。	1) 医療面接を説明する。 2) コミュニケーション技法・カウンセリング技法を説明する。 3) ラポール形成に必要な態度を説明する。
6月6日	有友たかね	ユニット9：多職種協働に必要なコミュニケーション GIO：地域歯科保健で各職種と連携を取るために保健、医療、福祉、介護の各職種の役割、連携の必要性を、講義とe-learningで習得する。	1) 高齢者に対する保健、医療の制度について述べる。 2) 福祉、介護における各職種の役割を述べる。 3) 地域歯科保健での各職種の連携の必要性を説明する。 4) 情報共有の在り方を習得する。
6月13日	町田 麗子	ユニット10：摂食機能の発達と障害 GIO：障害児・者の摂食嚥下障害を評価するために、発達期における摂食嚥下障害とは何かを知り、中途障害や機能減退との違いを、講義とe-learningで理解する。	1) 摂食嚥下に関する解剖学的・生理学的基礎知識について、小児と成人の違いを比較する。 2) 摂食嚥下機能の発達について述べる。 3) 摂食嚥下機能の原因について分類する。 4) 摂食嚥下機能の疾患別特徴と症状について説明する。
6月20日	須田 牧夫	ユニット11：栄養の評価と指導 GIO：高齢者の栄養状態を知り、その管理方法を理解するために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	1) 高齢者の栄養状態を述べる。 2) 咀嚼機能・嚥下障害・栄養状態の関連を述べる。 3) 高齢者の栄養管理の方法を述べる。
6月27日	高橋 賢晃	ユニット12：地域連携と摂食支援（1） GIO：要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	1) 在宅療養患者における特徴を述べる。 2) 在宅診療の留意点を記述する。 3) 摂食支援の実際を知る。 4) 摂食嚥下機能の評価方法を説明する。 5) 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。 6) 摂食機能療法の計画・立案を説明する。
7月4日	菊谷 武	ユニット13：地域連携と摂食支援（2） GIO：要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を、講義とe-learningで習得する。	1) 在宅療養患者における特徴を述べる。 2) 在宅診療の留意点を記述する。 3) 摂食支援の実際を知る。 4) 摂食嚥下機能の評価方法を説明する。 5) 摂食嚥下機能の精密検査法を述べる。 6) 摂食機能療法の計画・立案を説明する。
8月29日	羽村 章	ユニット14：健康長寿を育む歯学教育コンソーシアムのまとめ GIO：健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を、講義とe-learningで理解する。	1) 要介護高齢者、口腔ケアの実際の方法を述べる歯科が医療の1分野であることを述べる。 2) 新規医療技術開発に向けて革新的進歩を続ける他分野との連携、コメディカルスタッフ等の他職種とスムーズな連携を述べる。 3) 超高齢社会のさらなる進展に伴い、大きく変化する医療現場において、全人的医療を担うチームの一員として適切かつ効果的に行動できる歯科医療人とは何かを述べる。

日本歯科大学における地域連携の取組みについて

日本歯科大学生命歯学部では、地域連携の拠点として、地域で支える食支援の構築を目指し、口腔リハビリテーション多摩クリニックを設置している。



日本歯科大学課題解決型医療人材養成プログラム事業推進委員会

担当名	氏 名	役 職	備 考
教 員	羽村 章	歯学部長	事業責任者
	沼部 幸博	教務部長	
	宮坂 平	教務部副部長	
	菊谷 武	教 授	
	有友 たかね	助 教	
事 務	米沢 登	事務部長	
	中世古 大介	課 長	
	高橋 猛生	課 長	
	高橋 孝幸	部 長	

本事業に係る問い合わせ先

生命歯学部 庶務部

Tel 03-3261-8311 (代表)

学生の感想

- ・ 2年生にとってはまだ習っていないような部分も多々あったので完全に理解するのは難しいと思いました。これからどのような人材が求められ、育成され、どのように歯科医療、健康に貢献していかなければならないのかなど、内容としては、とてもおもしろいと思いました。
- ・ 政策、異分野連携による研究にまで話が及び、新鮮であった一方で、2年生の知識では理解できない部分が多かった。
- ・ 他大学の先生の講義を聴けることはほとんどないので、このような機会はとても貴重で有意義であると感じました。
- ・ 5つの大学の特徴を活かした講義を受けられる本プログラムは、歯科医師として視野が広げられ、大変有意義な授業だと思います。
- ・ 講義により、他の大学がどのような研究を行っているのか教えて頂き、研究への好奇心、また歯科医師が研究と臨床の両方向へ貢献できることを学びました。
- ・ 他大学の授業を受けられるということは勉学に取り組む刺激になり非常に良い機会であったと思う。
- ・ 歯科の独創性だけではなく、普遍性を理解し、多くの人の健康に貢献できるような歯科医師になりたいと心から思いました。
- ・ 講義から、歯科だけではなく、他分野と交わり歯科治療を行い、また他分野と行った研究を理解し、それらの知識を具備することが、これから歯科医師として大切であることを痛感しました。
- ・ 分野を細分化せずに複合して歯科治療に生かす方法をお聞きし、ためになりました。
- ・ 将来、いろいろな分野の人と知り合いになり分野を超えて医療の発展のために勉強していきたいと感じました。